

令和3年度事業報告

1 協定事業

(1) 普及啓発部門

ア 区民まつり等イベントや学習会等を通じた重点テーマの普及

【目的】

- ・区役所等が開催する環境イベント等において、令和3年度重点テーマの普及を実施し、「Zero Carbon Yokohama」の実践者を増やす。
- ・Facebook(ゼロカーボン横浜チームゼロ)、YouTube、Twitter、参加者、会員、広く市民に呼びかけて、学習会等を実施する。
- ・横浜市内大学、高校、区役所、自治会、団体等と連携し、「Zero Carbon Yokohama」、SDGsの実践に向けた授業・学習に対して、講師派遣等を実施する。
- ・取組視点にSDGsを入れる。

【実施内容】

開催日	場所等	概要
令和3年 9月15日より	1) 区民まつり申請・調整 区民まつりの開催を聞き取り調査実施。	16区に開催の有無を聞き取り。6区から申請書が届き、提出したが結果、コロナの感染拡大で全て中止となった。
令和3年 10月5日より	2) 動画配信の調整 3区(港北区、東神奈川区、瀬谷区)にて区民まつりの代わりに参加団体の活動動画を配信できることになり、動画配信の調整を実施した。	新型コロナウイルス感染症への対策として、3区においてオンラインで参加団体の活動紹介が実施された。 当協議会の日頃の活動の紹介、今年度より新たに開設した、Facebook「ゼロカーボン横浜チームゼロ」のPR等実施
令和3年 10月15日より 10月25日 アップ	3) 動画配信等準備・配信 ふるさと港北ふれあいまつり専用WEBページ https://kohoku-matsuri.net/	・今年度は新型コロナウイルス感染症への対策として、昨年に引き続きオンラインで11月6日～11月21日の期間で開催された。 ・団体や学校の部活動の発表の場も設けられ、当協議会も動画(https://youtu.be/KWmiF4ZPNBI)にて日頃の活動の紹介、昨年度より開設した、Facebook「ゼロカーボン横浜チームゼロ」のPR等を行った。(写真1参照) また太陽光発電のPRも実施した。
令和3年 10月15日 ～	令和3年度 神奈川区民まつりオンライン準備等(ライブ配信等) https://kuminmatsuri.kanagawa.jp	新型コロナウイルス感染症への対策として、オンラインで開催された。様々なカテゴリーで活動する団体から紹介動画を募り、配信。当協議会紹介動画を提出(https://youtu.be/7gZS3cpy_88)。12月19日にフィナーレが配信された。

<p>令和3年 10月20日 ～</p>	<p>瀬谷フェスティバル動画準備・配信 「あの日、あの時、あのはらっぱで ～写真で振り返る瀬谷フェスティバル～」 https://youtu.be/Xz_luWdmJl8</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、瀬谷フェスティバル自体は中止となったが、「過去の瀬谷フェスティバルを振り返る動画」と「協力団体の団体紹介動画」の2種類のスライドショー動画を配信。当協議会は、後者の動画用に、活動の様子を紹介する素材写真を提供した。</p>
<p>令和3年 10月1日～ 事前準備等 11月5日開催</p>	<p>4) イベント ①港南区役所1階ロビーにて廃食油回収時に重点テーマの普及呼びかけを実施した（写真2参照）</p>	<p>横浜カーボンオフセットプロジェクトのアンケートを取りながら、どの項目の省エネ効果が大きいか、LED電球への買い替え効果がいことを説明した。また、太陽光発電プロジェクトチラシを配布。リーダーは事前調整、スタッフは事前準備を実施した。</p>
<p>令和3年 10月10日 ～当日 11月20日</p>	<p>②磯子区役所イベントにて協議会共催にて参加</p>	<p>地球温暖化のお話と、LED電球の買換え効果がいことを説明した。 リーダーは事前調整、スタッフは事前準備を実施した。</p>
<p>令和3年 10月1日より調整等 当日 11月23日</p>	<p>③泉区深谷通信基地</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区民まつりは中止となったが「防災・脱炭素化啓発フェア」は実施。 ・地球温暖化の現状と実施出来る取組として、市が取り組んでいる「みい電」（「み」んなで「い」っしょに自然の「電」気）という再生可能エネルギーへの買い換えキャンペーン）のPRを実施。 ・当協議会事務局であるソフトエネルギープロジェクトの機器を活用した以下のような自然エネルギー省エネルギー体験を実施； ①手回し発電で電車を走らせよう！ ②多数のソーラーグッズを太陽の光で動かす ③白熱電球とLED電球の消費電力測定 <ul style="list-style-type: none"> ・電気は⑥の車の太陽光発電の電気活用 ④ソーラカーの展示 ⑤ソーラークッカーの体験 ⑥車に搭載した太陽光発電とバッテリーの説明 <p>太陽光発電のパンフも配布してPRを実施した。</p>

令和3年10月18日より準備	④吉田町の子ども食堂にて親子対象体験イベント参加	吉田町自治会関係者と何度か打合せ、現地視察等も行い、 スタッフは事前準備を実施したが、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言の発令により中止となった。
11月1日 11月16日	5) 学習会 ①旭区地球お助け隊学習会 打合せ等開始 当日	旭北地球お助け隊学習会にて事前準備 横浜市の温暖化対策実行計画のパワーポイントを活用して、学習会を講演実施した。 太陽光発電のパンフを配布した。
11月22日 11月28日	②芹が谷中学校 笑顔つなげ文化祭 当日	生徒会の開催する文化祭にて、350名の生徒に対して、地球温暖化と私たちにできる事の講演実施、パワーポイントの中に、太陽光発電チラシも入れて紹介実施した。
12月1日 12月20日	③港南区連合自治会協議会にて 当日	参加者は港南区連合自治会長と港南区社会福祉協議会会長、区長等65名。 地球温暖化の現状と対策について講演、パワーポイントの中に 太陽光発電チラシも入れて紹介した。
11月20日 1月31日	6) Face bookでの広報 当日	学習会地球お助け隊、芹が谷中学、港南区連合自治会協議会の活動についてイベント、学習会のアップ
1月5日から 1月27日	7) 講師派遣 希望が丘高校 SSH 授業に講師派遣 (写真3参照) 質問・講評実施	4年目となる希望が丘高校のSSH授業1年生9クラスに9月講師8名を派遣した。その後、1月27日に生徒の提案を聞いてコメントする授業に9名の講師がオンライン等で参加し、生徒の発表について、質問、講評を実施した。

写真1



写真2



写真3



イ 風力発電とエネルギー関連施設等の見学会の開催

【目的】

風力発電、エネルギー関連施設等を見学し、エネルギーの現状を理解してもらうとともに、その場を活用して省エネ・再エネ講座を実施し、令和3年度重点テーマのPR実施等による二酸化炭素削減の実践者を増やす事とした。なお、新型コロナウイルス感染症の状況について環境創造局、環境エネルギー課と相談して推進した。（写真4参照）

【概要】

日時	場所	参加者	内容
令和3年 11月16日(火)	ハマウイング	40人	風力発電所「ハマウイング」と省エネ・再エネ講座

【成果】

新型コロナウイルスの状況のなかではあるが、環境創造局環境エネルギー課と綿密な相談をして人数も最小限で実施した。

また、往復のバスの中では、省エネ、再エネ講座を実施した。SDGsも関連させた講座とした。

写真4



ウ 環境関心希薄層への啓発

【事業目的・趣旨】

従来実施してきた温暖化防止啓発セミナーやイベント等は、元々ある程度、環境問題に関心のある層が参加してきた。そこで、啓発のすそ野を広げるために、親子や一般市民の関心を引きそうなキャラクターを活用し、YouTube 動画媒体を使い、内容も、ある程度、柔らかく、ユニークで広く、関心をもってもらえる内容の啓発事業を企図した。

【事業内容】

啓発動画内では、説明・案内役としてフェリス女学院大学国際交流学部知足ゼミ生制作による啓発パンフレット「日常からゼロカーボン」内に出ている「ゼロカーボン子」をキャラクターとして使用し、アシスタントパートナーのキャラクターを別途作成し、2人のキャラクターのかけあいによる啓発動画を当協議会YouTubeチャンネルにて投稿配信した。

「日常からゼロカーボン」は、令和元年度に実施された「企業等×学生の環境課題解決マッチング会」にて、横浜市が出した「Zero Carbon Yokohama に向けた、ムーブメント作り」という課題への提案として作成された啓発パンフレットである。このパンフレットのイラストを担当したのは、知足ゼミ生であり、本事業動画内に登場する「ゼロカーボン子」(※1)および途中から(第8回以降)アシスタントキャラクター(※2)も同じ知足ゼミ生が担当した。なお、キャラクターの音声も、当初は自動音声だったが、途中から(第5回以降)ゼミ生自身に担当していただいた。

※1 「ゼロカーボン子」

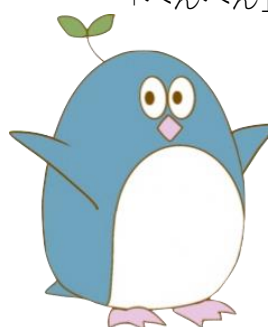


※2 アシスタントキャラクター

「うさ美」



「ぺんぺん」



【実施結果】

共通タイトル「ゼロカーボン子がお届けする～ゼロカーボン横浜達成大作戦」

動画タイトルおよび概要	公開日	視聴回数 (1/31 時点)	URL
<p>第0回 <u>ゼロカーボン子と愉快的仲間たち</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画シリーズ趣旨説明 ・キャラクター自己紹介 	2021/11/8	420	https://youtu.be/B6u247DbA60
<p>第1回 <u>地球温暖化問題の原因とその影響について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の仕組みとその影響について 	2021/11/15	478	https://youtu.be/agG32XbJx1k
<p>第2回 <u>ゼロカーボン横浜</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボン横浜について ・国際社会およびわが国の地球温暖化対策取り組み 	2021/11/22	172	https://youtu.be/aaCJfqPwMds
<p>第3回 <u>市民が削減目標とすべきCO2排出量</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市全体のCO2排出量 ・市民が削減目標とすべきCO2排出量 ・目標を身近な例で具体的にイメージしてみる 	2021/11/29	117	https://youtu.be/ws1_DRz02nY
<p>第4回 <u>COP26の結果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・COP26の結果 	2021/12/6	86	https://youtu.be/71xnvwhWshI
<p>第4.5回 <u>中の人交代です！（次回に関する重大発表！）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回から、フェリス女学院大学知足ゼミ生が、直接、声を担当旨の告知回。 	2021/12/13	90	https://youtu.be/jQeLY1kxSnw
<p>第5回 <u>（プラスチック×ゼロカーボン）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知足ゼミ生によるアフレコ初配信！ ・パンフレット「日常からゼロカーボン」よりプラスチック×ゼロカーボン編紹介。 	2021/12/20	376	https://youtu.be/YAsK80o7JHs
<p>第6回 <u>（家庭の電気×ゼロカーボン）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット「日常からゼロカーボン」より家庭の電気×ゼロカーボン編紹介。 ・がんばらない省エネ ・ちょっとがんばる省エネ 	2021/12/28	139	https://youtu.be/j32W2uk0-Fw

<p>第7回 (水×ゼロカーボン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット「日常からゼロカーボン」より、水×ゼロカーボン編紹介。 ・水の使い過ぎ ・生活排水 ・仮想水 (バーチャルウォーター) 	2022/1/12	95	https://youtu.be/sa_Cb5mBBuA
<p>第8回 (ゼロカーボン子の1日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット「日常からゼロカーボン」より、「ゼロカーボン子の1日」編を紹介。 ・ゼロカーボン子の低炭素な1日の過ごし方を紹介。 ・モーニング編、買い物編、帰宅から就寝まで ・新アシスタント紹介! 	2022/1/19	120	https://youtu.be/Um0N-rKEYng
<p>第9回 (自然の電気を使ってみない?)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭部門におけるCO2排出割合、横浜市は約68%が電気 ・集合住宅の住人が自然エネルギー(再生可能エネルギー)由来の電気を使うには ・首都圏で実施中の「みい電」の紹介 	2022/1/25	106	https://youtu.be/CuwkIDu4QXs
<p>第10回 (水素社会を目指して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気以外のエネルギー源の脱炭素化 ・国内で足りない分、海外の再生可能エネルギー適地での水素生産 ・水素の運搬・貯蔵方法色々 	2022/1/31	34	https://youtu.be/HRRq56iE00U



(第1回よりスクリーンショット画像)



(第5回のサムネイル画像)

【結果考察・今後の課題】

1月31日時点での平均視聴回数は、186回であり（2月13日時点での平均視聴回数は208回）、初回・次回および知足ゼミが初めてアフレコを担当した回は視聴回数350回を超えるなど一定の広報効果はあった。しかし、100回を切る回もあつたり、テーマによって視聴回数にばらつきも見られ、啓発効果のすそ野を拡大するという目的にはまだ十分ではない点もあることは否めない。

視聴回数にばらつきが見られ、伸び悩んだ回がいくつかあつたことの原因としては、動画広報および内容のチェック体制の2点が挙げられる。

まず、動画の広報面についてだが、広報のツールが、Facebookグループ「チームゼロ」や協議会のTwitterが中心で、もともと、環境に関心のある層が広報の対象の中心となつてしまった。当初この事業が目標としていた環境関心希薄層への広報手段については、今後の課題である。また、動画の内容について、協議会、市、知足ゼミ生と、事前に確認をしながら進めたが、その中に、そもそも環境関心希薄層が含まれていなかった。知足ゼミ生も、もともと環境に関心のある層なので、環境関心希薄層からみて面白いかどうかのチェックが十分だったかは疑問が残る。

今後はこれらの反省点を活かし、環境関心希薄層へリーチする広報手段を活かす方法を見つけること、および、内容に関して、動画配信する前に、環境関心希薄層のふりいにかける手立てが必要であると思われる。

(2) 削減実践部門

ア 太陽光発電の普及（実施主体：太陽光発電普及プロジェクト会議、事務局補佐）

【目的】

横浜市が2050年を見据えて宣言したZero Carbon Yokohamaの実現、「横浜再生可能エネルギー活用戦略」の推進に向けて、昨年度発足した「太陽光発電普及プロジェクト会議」によって太陽光発電の普及促進を図る。

また、横浜市の推進する様々な取組との連携、他組織との連携、具体的削減数値測定等を目指す。事業の実施はSDGsの視点を持った取組とした。

【内容】

日時	項目	概要
9月1日～ 9月15日 1月13日	「太陽光発電普及プロジェクト会議」 事前準備 当日第一回目 当日第二回目	① 会員事業者、幹事、横浜市等が連携し会議を2回開催した。 事前調整、当日運営、議事録の作成を実施した。
10月15日～	区役所等に配布	②作成したチラシを区役所、図書館等市の関連組織等の多方面に配布した。
11月15日～	各区の動画、Facebook等でアップ	③各区の区民まつりに参加してチラシの配布予定であったが、区民まつりは全て中止となり、3区での動画やFacebook等で紹介を実施した。

11月16日から	学習会等で配布	④様々な団体・組織と連携して学習会・見学会等において配布した。
1月末	削減数値等把握	⑤設備の設置による具体的削減数値を把握した。 蓄電池 132 件、太陽光発電 45 件 家庭用のみ

【成果】

プロジェクト会議を2回開催した。市の関わっている組織であり、なかなか具体的なPRをしてあげられなかったが問い合わせもあったが、その問い合わせが具体的設置に結び付いたかの把握は出来ない、それでも、個人住宅中心に、蓄電池の設置が進んでいる。今後の市への事務局移行に伴い、企業と連携した普及啓発をいかに進めるかが課題である。

(3) 環境学習・研修部門

ア 企業×大学等の環境課題解決マッチング会

(実施主体：大学・企業マッチング会プロジェクト会議、事務局補佐)

【目的】

市内の大学、会員企業等が連携して、企業が提案する事業課題について、大学生が現場等の体験やヒアリングを行い、解決策を提案する。

【内容】

日時	項目	概要
		①令和3年度マッチング会の実施は1月29日、オンライン、リアル、ハイブリットのいずれかで開催する事とした。 当初はリアル開催予定で、横浜情報文化センターホールを抑えたが、オミクロン株による蔓延防止宣言が発令されてオンライン開催となった。費用は全額戻る事となった。
10月26日 11月3日	プロジェクト会議開催 プロジェクト会議開催	②プロジェクト会議オンラインにて2回開催 今年度の開催方法、タイムスケジュール等について確認
11月15日～	企画・依頼文作成	③学生、企業宛の参加依頼文作成 (申込書、今後のスケジュール、当日スケジュール案審査基準等案)
12月1日～		④企業の課題募集は、課題提案用紙を作成して、会員企業等に呼びかけた。 当初8社に呼びかけたが。結果4社となった。
12月15日 ～	大学生募集開始	⑤大学生の募集ー 各幹事大学に応募を依頼した結果、6チームの応募となった。国大4チーム、フェリス女学院大学2チーム、今回はゼミに所属しないチームから1チーム応募があった。 また、希望が丘高校からは4チームの参加が決定した。

12月22日	マッチング開始	⑥マッチング調整に当たっては、横浜国大氏川ゼミにオンラインで参加して趣旨の説明等数回実施した。
12月26日	決定したマッチング結果を学生・企業に伝えてヒアリング等調整	⑦マッチングが決定して大学生が企業等のヒアリングを実施した。
1月5日	学生と企業のヒアリング等開始	⑧初めて参加のチームについては、企業とのオンラインマッチングの場を設ける、主旨の説明、実際の顔合わせ等調整を実施した。その後は独自でやり取りをして提案につなげた。
1月15日	司会との打合せ	⑨今回は、司会も4名の学生が担当した。司会との打合せ実施。 横浜国大2名 フェリス女学院大学2名
1月17日 1月27日	関係者にて事前打合せ実施	⑩当日運営について、横浜市も含め事前打合せを実施。 希望が丘高校の参加チームが当日自宅からのオンライン参加となったために、発表者と担当の先生もZOOMにて参加し、当日発表の練習も実施。 先生と生徒は何時間も学校で練習をしてくださった。
1月29日	開始前に、関係者と詳細打合せ	⑪当日運営 ホスト校、横浜国立大学氏川ゼミ、審査委員、希望が丘高校生および諸先生方が参加して、当日次第等について詳細打合せ実施。
1月30日		⑫参加企業に対して実現可能性についてアンケート実施した。 ぜひ実現したい 1社 実現を検討したい 3社

【成果】

今年度は、横浜国立大学氏川ゼミが開催校となって下さり、10月プロジェクト会議で開催を決定した。当初はリアル開催予定であり、横浜情報文化センターホールを抑えたが・オミクロン株による蔓延防止宣言が発令されてオンライン開催となった。（写真5参照）

例年12月に開催してきたが、12月を延ばすと学校の試験等と重なり等、関係者のスケジュール都合を調整した結果、1月29日の開催となった。

企業の呼びかけは、会員企業にメールにて呼びかけたが、新しい事業者からは1社も応募が無かった。個別に連絡を取ってみたが、マッチング会の意味が浸透していなく、各社自社は脱炭素対策取組実績があまりないのでとの意見であった。次年度開催時には、早くからマッチング会の主旨を伝えて、あわせて、脱炭素社会の学習会開催等を実施する事が必要である。マッチング会＝企業の脱炭素社会への取組行動のアップにつながる事が望ましい。

脱炭素社会実現には海の二酸化炭素吸収も重要であり、また、国においても海の二酸化炭素削減数値測定も実施するとの事で、八景島様に参加を呼びかけ参加いただいた。

学生については、マッチング会への参加学生に司会を募った所、横浜国立大学氏川ゼミから2名、フェリス女学院大学知足ゼミから2名の合計4名が手を挙げて下さり、司会を主体的に担っ

て下さった。発言集を作りましょうかとお聞きしたら、スケジュール表と名簿があれば自分たちで考えますと言って下さり、お任せする事とした。これ自体が人材育成そのものであるといえるのではないであろうか。

また、今年はゼミに所属していない都市科学部の学生が2名でチームをつくり応募いただいた。喜ばしいことである。来年度は、更に参加大学を増やす事も進めていく事が必要であろう。マッチング会は、学生が企業の脱炭素社会の取組を学ぶ機会となる。したがって、社会に出てからの提案・調整・実現能力を学ぶ人材育成の場となっている。プロジェクト参加の横浜国立大学氏川ゼミ氏川教授およびフェリス女学院大学知足ゼミ知足准教授からも評価が高く、次年度への継続を強く希望されている。次年度は、司会だけではなく、運営そのものを学生に担って頂くのも可能と思われる。今後は、提案の実現にむけて取組を進めたい。

【マッチング会終了後の実現可能性の取組】

①	一昨年の横浜市へのフェリス女学院大学知足ゼミ生の提案が、今年度の協定事業「関心薄い層への働きかけ事業」へと繋がり、更に泉区のエコバックの作成協力へとつながった。
②	横浜国立大学氏川ゼミ生の関内まちづくり振興会への提案が、振興会と協議会（氏川幹事、歌川幹事、大川副会長、佐藤参加）、パタゴニアが参加した、関内まちづくり振興会「環境部会」の発足へとつながっている。
③	イケア港北様への横浜国立大学氏川ゼミ生、フェリス女学院大学知足ゼミ生の「サステイナブルな暮らし方」の動画やクイズでの来店者への取組呼びかけ等が店内で実施された。企業のPRではなく、「サステイナブルな暮らし方」として実行できた事は来店者、また呼びかけを実施した学生の両者の人材育成へとつながっている。
④	(株)大川印刷様への東京都市大学学生の提案が、大川印刷様の社員の他企業への脱炭素社会への取組呼びかけへとつながり、(株)大川印刷社員の中での人材育成ともなっている。
⑤	日産自動車様への横浜国立大学氏川ゼミ生の提案が、日産カーポートと大学内でのチョイモビのカーシェアリング取組実験としてつながった。

写真 5



2 自主事業

(1) 環境施設等親子見学会

新型コロナウイルス感染症により中止

(2) 排水油脂、廃食油フードグリーン発電普及プロジェクト

ア 区役所、自治会町内会における回収、及びイベントでの回収・削減結果のお知らせ

イ 芹が谷中学校での生徒会主催による廃食油キャンドルづくり

打ち合わせ、アドバイス、立ち合いを実施。

(3) 関内地域のエコタウン化事業

ア 環境部会立ち上げに向けての関係者による検討会の実施 (Zoom 会議)

イ 関内まちづくり振興会まち歩きへの参加

関内地域のまちの環境の取組の視察を実施した。また屋上への太陽光発電の設置可能性や、壁面緑化等の視察を行った。

ウ 省エネルギー学習会の開催

【概要】

日時	実施方法	参加者	名称
令和4年3月14日(月)	オンライン	30人	省エネ診断の効果と事例報告

【内容】

- ・ヨコハマでのエコタウン化の可能性…省エネルギーセンター 鈴木氏
- ・省エネ診断の役割と効果(事例含む)…同上
- ・省エネ診断を受けた企業の実績報告…旭広告社

(4) マッチング会フローアップ事業

関係企業、学生との打合せを実施した。

(5) 横浜サステナブル市民会議

【目的】

脱炭素社会の実現に向けて、行政、議員、専門家、民間 NGO や市民を巻き込み、政策提案や実践に取り組むことを目的とし、専門家等による講演や参加者による意見交換を行う。

【概要】

日時	実施方法	参加者	名称
令和4年 3月31日(木)	オンライン	49人	・脱炭素社会の実現に向けた専門家等による講演 ・参加者による意見交換

【内容】

- ・気候市民会議とは…北海道大学 三上直之氏
- ・COP26 報告と科学的根拠に基づく行動提起…国立環境研究所 江守正多氏
- ・若者会議の取組報告…日本版気候若者会議事務局 西田吉蔵氏
- ・ご参加の皆様による意見交換

(6) 関東地域協議会交流会

令和3年度は千葉市が主催となり、オンラインで開催された。

(7) ウェブサイトでの発信および Facebook の運用

【事業期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

ア ウェブサイトでの発信



- 横浜市地球温暖化対策推進協議会
- 横浜市地球温暖化対策推進協議会とは
- 横浜発！太陽光発電普及キャンペーン2020年
- 事業計画及び事業報告
- 会員名簿
- 入会案内とお問

横浜市地球温暖化対策推進協議会

横浜市地球温暖化対策推進協議会

★市民・事業者・NPOの皆さん、地球温暖化防止活動に、
ご参加下さい！

横浜市地球温暖化対策推進協議会は、横浜市、市内事業者、NPO等の団体、個人約200団体・個人が参加して「横浜市地球温暖化対策実行計画」の実現にむけて活動を推進しております。会員になって私たちと一緒に活動していただける方を募集しています！

※「地球温暖化対策推進協議会」は、地球温暖化対策の推進に関する法律第26条に定められている登録任意団体です。

<https://www3.hp-ez.com/hp/npo2017>

【発信概要：計6回】

日付	内容
2021.6.8	台所油田プロジェクト活動始動！
2021.7.1	書面総会開催。規約改定。役員名簿更新。
2021.7.18	会員名簿更新。
2021.11.8	港南区役所で廃食油回収！【台所油田プロジェクト】
2021.11.9	「2021 ふるさと港北 on-line ふれあいまつり」に出展中
2021.11.11	横浜市風力発電ハマウイング見学会& 「世界・日本の風力発電の現状」学習会 参加者募集！

イ Facebook の運用



<https://www.facebook.com/groups/yokohama.team.zero/>

【登録者数】

既に取り組を進めている横浜市内の企業、団体間、大学・自治会等の情報を見える化し、横のつながりを強化するプラットフォームを立ち上げることを目的として、Facebook「チーム・ゼロ」を2020年に開設して以来、3年目を迎えた。昨年度末時点(2021年3月31日現在)で768名であった登録者数は、2022年3月22日現在、927名まで増加した。

【平均閲覧数の推移】

2021年4月1日から2022年3月21日までの期間における、1日当たりの月毎の平均閲覧数は以下のグラフのようになった。年間を通しての1日当たりの閲覧数は、201であり、投稿によっては、約1000回もの閲覧数に達することもある。情報提供や意見交換、イベント告知の場としてしかるべく役割を果たしているといえる。

